

| | | |
|--|-----|---------------------------|
|  <p>名古屋大学農学部 同窓会報</p> <h1>セコイア通信</h1> <p>～農学部50周年記念号～</p> | 発行所 | 名古屋大学農学部同窓会 名古屋市千種区不老町 |
| | 編集人 | 門脇 辰彦 |
| | 発行人 | 巽 二郎 |
| | 印刷所 | 株式会社 クイックス |

農学は21世紀を拓く！ — 農学部創立50周年記念

同窓会名誉会長 並河 鷹夫 (農学部長・生命農学研究科長)

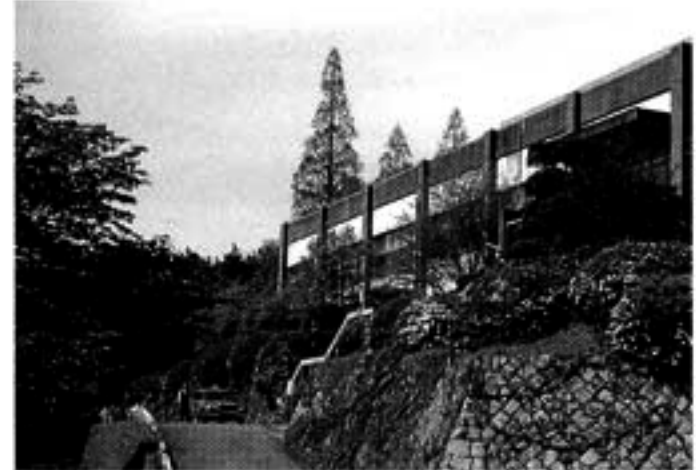
同窓会関係各位の皆様方お元気ですか。それぞれの分野でご活躍のことと御推察し、お慶び申し上げます。また、本年3月、21世紀元年の春、卒業・修了される皆さん方、心より門出をお祝い申し上げますとともに、農学部同窓会への加入を歓迎します。同窓会への加入を機に、国内外で活躍する先輩諸氏や母校教職員等との親睦、連携、相互支援の輪を一層拡げていただき、皆さんの将来の活躍に是非活かしていただきたく思います。

農学部創立50周年記念事業につきましては、同窓会の皆様方をはじめ関係各位の深い御理解により、多大な御支援・協力をお寄せいただいております。おかげで、同窓会を中心とした記念事業後援会（会長芦田淳名誉教授、元学長）と記念事業委員会（委員長奥村純市教授）を先頭に、記念式典・祝賀会、50年史の刊行、特別記念講演会等々、この歴史的な事業を遂行するための準備を順調に進めております。皆様方のお力添えに改めて深くお礼申し上げます。

農学は21世紀を拓く！ 20世紀後半に急激に拡大した負の諸問題を解決し、人間性豊かな食・環境・健康を地球規模の協力で具現化すること、これは21世紀人類の最重要課題です。農業は何千年も前から人類に「理に適った自然との付き合い方」を教え続け、農学はその理に適った生産・利用の研究を基本に発展してきました。

た。農学は、人類が太陽エネルギーで動く閉鎖型物質循環系の中で生きていること、そしてこの限られた循環系の中で「最近の人類がやりたい放題やったこと」（人口爆発・食糧危機・大量生産・大量消費・大量廃棄、生態系破壊）を最もよく知る、自然、生物、人間に謙虚な学問です。農学部・生命農学研究科は生命現象の仕組みの解明と生物先端科学技術開発の教育研究を一層力強く展開すると同時に、21世紀の新たな価値規範、文化の醸成に貢献していくことを目指しています。

最後に、同窓会の皆様のご活躍を祈念し、また今後とも変わらぬ御教示・支援をお願いして21世紀初頭のあいさつとします。



—【同窓会長のあいさつ】—

透 明 な 森

同窓会長 巽 二郎

この同窓会報は、今年卒業されるみなさんの祝福をかねていますので、まず「卒業おめでとうございませう」と述べさせていただきます。

さて、農学部は今年創立50周年をむかえます。同時に同窓会は45周年をむかえることとなります。1955年に第1回の卒業生を送り出してから約1年後の3月に同窓会が設立されたために、5年のズレがあるわけです。この45年間に卒業し、社会のさまざまな場所に植えられた苗木が、今や目に見えない大きな森となって茂っています。木々の落ち葉は地面に堆積し、新しく植えられた苗木の成長を助ける力となっています。同窓会は目に見えぬ、いわば人間の森や腐葉土を含めた生態系を可視化する仕組みだといえるでしょう。

農学部創立50周年記念事業には実に多くの方々のご協力して下さいました（現在も継続中です）。これは50周年記念事業後援会の方々のご努力のおかげでもあります。同窓会員の誠意あるご協力とネットワークのたまものでもあります。社会の変化がますます激しく不透明になるなかで、同窓生が長年のうちに育てた透明な森の利用価値は明らかに増大しつつあり、この森のより一層の活用が期待されます。5年後には同窓会創立50周年が迫っています。これを機会に、同窓会組織の管理・運営を高度情報化社会に適応した、合理的で高能率なものに進化させる必要があります。透明な森の実体化のために、どうぞ皆さんの絶大なるご協力をお願いします。

名古屋大学農学部創立50周年記念式典・ 記念特別講演会・記念祝賀会へのお誘い

名古屋大学農学部創立50周年記念式典・記念特別講演会・記念祝賀会が以下の予定で開催されます。多くの会員の方々の参加を歓迎いたします。

●記念式典

日時：平成13年4月28日(土) 午後2時～3時

場所：名古屋大学豊田講堂

式次第：

開式の辞

式 辞 名古屋大学大学院生命農学研究科長・
農学部長 並河 鷹夫

挨拶 名古屋大学総長 松尾 稔

来賓祝辞 文部科学省
国立大学農学系学部長会議会長

林 良博

元名古屋大学長・元農学部長

芦田 淳

卒業生代表・中日本冰糖株式会社社長

福井 敏夫

祝電披露

閉式の辞

●記念特別講演会

日時：平成13年4月28日(土) 午後3時～4時30分

場所：名古屋大学豊田講堂

テーマ「生命科学の世紀を迎えて

一わが国の生命科学の課題」

講 師 井村 裕夫氏

総合科学技術会議議員・前京都大学総長

●記念祝賀会

日時：平成13年4月28日(土) 午後4時30分～6時

場所：名古屋大学シンポジオン(ホール)

開会の辞

挨拶 名古屋大学大学院生命農学研究科長・
農学部長 並河 鷹夫

挨拶 名古屋大学総長 松尾 稔

来賓祝辞 文部科学省

乾 杯 名古屋大学事務局長 野角 計宏

閉会の辞 名古屋大学大学院生命農学研究科教授

名古屋大学農学部創立50周年

記念事業委員会委員長 奥村 純市

記念祝賀会への参加は、招待者ならびに名古屋大学農学部創立50周年記念事業後援会にご寄付頂いた方々(3万円以上ご寄付いただいた個人ならびに10万円以上ご寄付いただいた団体)に限らせていただいています。ご寄付に関するお問い合わせご連絡は、

名古屋大学農学部創立50周年記念事業後援会

名古屋市千種区不老町

電話 052-789-4072または4151 FAX 052-789-4150

Email: dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp

または名古屋大学農学部同窓会ホームページ(<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>)をご覧ください。

尚、記念式典開始1時間前(午後1時)に、農学部講義棟南側において記念植樹が行われます。樹種はヒトツバタゴ(なんじゃもんじゃの木)です。

◆名古屋大学農学部創立50周年記念講演シリーズ

「進化する生命農学」—21世紀のフロントランナー像—
名古屋大学農学部創立50周年を記念し、上記シリーズの記念講演会をシリーズで開催します。詳しくは、名古屋大学大学院生命農学研究科・農学部ホームページ(<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/>)をご覧ください。

◇◇◇

平成13年度名古屋大学農学部 同窓会総会のご案内

農学部同窓会総会を下記の日程で開催いたします。総会は会員の皆さんの意見を反映させる場でもあります。積極的なご参加をお願いします。本年の総会は農学部50周年記念式典に合わせて行いますので、例年よりも期日が早くなっております。50周年記念式典の参加と合わせてご出席下さい。なおこれにともない、同窓会の懇親会および講演会は中止いたします。

●同窓会総会

日時：平成13年4月28日(土) 午前11時～12時

場所：名古屋大学農学部 第3講義室

同封のはがきにて総会への出欠のご返事をお送り下さい。総会に欠席の場合は委任状をお送りいただきますようお願い申し上げます。

◇◇◇

関東支部からのお知らせ

名古屋大学農学部創立五十周年を記念し、関東支部では左記の通り支部総会並びに講演会を行います。

講演会には、五十周年記念事業後援会会長の芦田淳名誉教授と農学部から並河鷹夫農学部長、巽二郎同窓会長をお招きし、農学部五十年の歩みや、記念事業の経過についてお話いただき、また、大改革の過程にある農学部の近況についてお話しいただく予定にしております。

関東在住の同窓生の皆様の多数のご参加をお待ちしています。今回は、関東在住の旧教官の方々にもご案内を差上げております。また、関東支部以外の方々も是非ご参加ください。

記

日 時：平成13年7月14日(日) 14時より

場 所：KKR HOTEL TOKYO (旧竹橋会館)

千代田区大手町1-4-1 TEL 03-3287-2921

総 会：役員改選 (30分)

講演会：“研究教育と管理運営

名大を中心とした私の五十年” (60分)

五十周年記念事業後援会会長 芦田 淳氏

“五十周年事業報告” (30分)

同窓会長 巽 二郎氏

“農学部の近況” (30分)

農学部長 並河 鷹夫氏

懇親会：講演会終了後19時頃まで、懇親会費として1万円をご用意下さい。

連絡先：幹 事 朱宮正剛 03-3964-3241(内線3100)

幹 事 犬飼初男 0426-75-2539(自宅)

支部長 彌富吹彦 0426-76-5245(自宅)

事務局からのお知らせとお願い

東海豪雨による被害を受けられた方々にお見舞い申し上げます。

昨年9月11日-12日の東海豪雨により被害を受けられた同窓会会員各位にお見舞い申し上げます。農学部では幸い東山の建物群には大きな被害がありませんでしたが、演習林、農場および東山実験水田がかなりの被害を受けました。農場では畑の一部が流出し、温室が浸水しました。東山の実験水田には大量の土砂が流れ込み、3つの区画で実験中のイネが埋没しました。同窓会の運営にご協力を！

農学部同窓会では会員相互の親睦、連絡をはかり、あわせて母校の発展に寄与することを目的として、各種の事業を進めています。同窓会の会計は全て会員のみなさまからの会費と寄付によって成り立っています。同窓会の円滑な運営のため、一人でも多くの未納会員のみなさまに会費を納入していただくとともに、みなさまの暖かいご支援をお願いする次第です。

○会費納入に関する変更とお知らせ

会員は卒業時と、10年目以後5年ごとにそれぞれ5,000円を納入していただいていたのですが、過去5年間の会費納入状況を整理し、未納会員の方には一律5,000円を今回ご請求申し上げます。

なお、平成11年度の総会において、20,000円を一括支払いしていただくと、永久会員として登録することが承認されました（以後会費の請求はいたしません）。会費納入の有無にかかわらず永久会員への登録が可能ですので、この機会にぜひ永久会員にご登録下さい。ご希望の場合は振込用紙の通信欄にその旨を記入の上、上記金額をお送り下さい。

○同窓会への寄付のお願い

同窓会ではいつでも寄付の受付を行っています。寄付金の申し受け方法は下記の通りです。

記

1. 寄付金と口数：1口 3,000円
2. 送金方法：同封の振替用紙によりお振り込み下さい。
3. 郵便振替口座：00810-1-14202

ご送金の際にはお手数ですが、振替用紙の通信欄に口数と金額をお書き下さい。

生命農学研究科・農学部を去るに当たって

森林環境資源学(森林経理学) 梅村 武夫

同窓の皆様には如何お過ごしでしょうか。今年定年を迎え、昭和32年の入学以来やっと卒業という感じがしております。44年間を振り返るとすれば頭の中が真っ白になるような気がします。卒業研究のため進学しました研究室は森林経理学で、木材を持続的に供給できる森林を守り育てながら、毎期の収穫量を決定していくという計画の立案方法を担当している分野です。当時は、中山博一先生、長嶋 郁先生、栗崎泰邦技官方が森林航測の実用化に取り組んでおられました。そのような中で、卒論では地上写真による森林・林木の測定法を、修論では空中写真による林分材積測定法を研究テーマとしていました。中山先生の定年ご退官とともに修士課程を修了し、博士課程に進学しました。当時は社会運動、スポーツ、麻雀が盛んな頃で、教官学生交流も今より盛んであったと思います。また、3年次に名古屋近辺を荒らした伊勢湾台風も忘れられない出来事でした。

中山先生の後任には、森林経理学を数学で書き直そうという鈴木太七先生が赴任してこられ、それ以後、森林経理学講座の勉強は、数学と統計学が主流となりました。鈴木先生が赴任当時から抱えておられた「森林の成長を確率過程として捉えられないか」という課題に目途がたった頃、学位論文のテーマにいただきました。その間には大学紛争による中断はありましたが、

充実した時期でした。尾鷲、カナダの森林調査、韓国出張も懐かしい思い出になっています。

昭和63年にご退官の鈴木先生の後を、その方式とともに引き継ぐことになりました。しかし、近年の社会経済をはじめ諸般の情勢の変化は目まぐるしく、森林への国民の期待も、木材生産から公益的機能の発揮へと変わってきました。このような中で、改称した森林環境資源学研究分野では、竹中千里先生が新しい要請に化学的手法で科学的に答えてくれるものと思っています。また、山本一清教官は、初代に戻り新しいシステムによるリモセンの導入を図っています。一方、大学では、教養部解体をはじめとする改革が進められ、農学部でも一応の学部改組、大学院重点化、それに建物改修が終了しました。しかし、学部、研究科の再改編、また、独立法人化の問題も目前に迫っています。このような転進の時期に定年を迎えるのは、過去の諸先輩と同様、「いいときにお辞めになる」といわれることになるのでしょうか。そんなことのないように、全構成員諸氏の納得が得られる改革が行われることを心より祈っています。長いあいだ本当に有難うございました。



飢餓の体験と興味のはざまを徘徊して

杉山 達夫

理学部か農学部かと迷いつつ、私が進路を農学部に向けたのは幼年期に遭遇した飢餓の体験によるところが大きい。住まいが大戦末期に罹災し、その後遭遇した飢餓の体験は今も忘れ難い苦しみである。

私は肥料学研究室に在籍していましたが、多感な青

年期故でしょうか、当時生き物の分子論理として台頭期を迎えつつあった生化学への転向を望みました。研究室を去ることに後ろめた



さを覚えつつフィリピンに創設された国際イネ研究所に研究員として参加し、イネのデンプン生合成の代謝研究の手ほどきを受けた。この研究所の設備や研究環境は経済の成長期前の本学農学部とは雲泥の差がありました。厳しいなかにも、充実した研究を送ることができました。

帰国後大学院にしばらく在籍した後、本学生物分子応答センターの母胎である生化学制御研究施設の助手を努めました。数年間、Rubiscoの研究に従事した後、ジョンズホプキンス大学医学部の生理化学研究室に留学し、コレステロール生合成にかかわる酵素の研究に従事しました。この研究は、いわばカロリー過剰摂取にともなうアフターエフェクトとして、当時の米国では社会的に重要な医学研究の課題であり、いかにして食糧カロリーを得るかに腐心していた国際イネ研究所での研究視点とは対照的でありました。社会とサイエンスの関わりを意識する機会との最初の出会ひでもありました。私はボスから医科学への転向を熱心に勧められていましたが、結局その誘いをお断りした。その契機となった出来事は酵素抽出の材料をトリの肝臓からヒトの脳に替えないかとのボスの助言でありました。

大学の所在地ボルチモアは犯罪が多く、病院に運ばれる射殺体の数からして材料の確保が我が国と比べものにならないことは確かですが、深夜低温でこれを破壊するわが身を想像すると生理的な恐怖感を覚えました。加えて、幼年期の飢餓体験と米国東部からは「極東」にある日本からの留学生に少しばかり芽生えた民族意識的な心情から、やはり自分は植物科学を志したいと思い、帰国を決意しました。

その後一人歩きの研究を始め、研究テーマは当時新しく発見された新規の光合成様式をもつC4植物の酵素生理学に類するものであった。この研究は7年近く在籍した静岡大学で着手し、本学に赴任した後もそれを続けた。その間、我が国では食生活は大きく変わり、飽食の時代とまで言われるようになった。自分の研究の視点もいつの間にか飢餓の体験から少しゆとりある方向へと移ることになった。しかし、食糧問題が深刻な局面を迎える時がやがて訪れるであろうことは今も私の心から離れない。

キャンパスの影が遠ざかろうとしている。農学部の将来に期待したい。

卒業生の言葉

4年間をふり返って

動物細胞学研究分野 水戸修平

1年生の時、8月の長期休暇を前に、自分を束縛するものがない日が長々と続くことに気付き、漠然と不安を抱えた。そこで短期のアルバイトをすることにした。結果的に忙しい夏を送ることになったが、社会の一端にふれることができ、すばらしい経験ができた。その後も休みの時期には、友達との旅行を企画するなど、自分で考え、行動に移してきた。

この4年間、自分がどのように時間を使ってきたかを考えたとき、漠然と過ごしてきた日々が思い出される。もっともっとやれることがあったのではないかと、そんなふうに思ってしまう。今思えば、大学生程自分のやりたいことをすぐに行動に移せる時期はないのではないだろうか。そんなことを思いつつ、大学院に進学した後の2年間を頭の中で思い描いている。

有意義な時間

資源生物環境学科 森林資源利用学研究分野 水野響子

大学生活も残すところ、後わずかとなりました。この4年間は、あっという間でした。勉強だけでなく、友人との交流など、有意義な時間を過ごすことができました。

4年生の1年間で、進めた卒業研究では、3年生までに学んできたこととは違い、自分で課題を設定し、それを、克服したことで、貴重な経験となりました。研究に行き詰まり、大変な時期もありましたが、すべて、これからの私にとって、プラスとなるものだと今は思っています。この先、社会人になり、困難に突き当たっても、この経験を生かし、問題を克服していきたいと思えます。また、大学生活で培ってきた、専門的な視野とともに、全体を見渡すことのできる視野を

持ちたいと思います。

この4年間では、多くの先生方や、先輩方、また、友人に支えられて過ごしました。

多くの人に出会えたことを感謝するとともに、とても嬉しく思っています。

アルバイトとともに

応用生物科学科 生理活性物質化学(旧化食系) 柴田亮平

私はこの名古屋大学に入学し4年間の過ぎ、もうすぐ卒業ということになりました。今ふりかえるといろいろなことが思い出されます。大学生という時期は私にとって学生から社会人となるための準備期間だと考えていました。高校までと違い、自由なことが多く時間の使い方というものにとまどい、自分から何かをしなければ時間だけが過ぎていくということを強く感じました。そんな中で私はアルバイトに一番力をいれることでとても多くのことを学ぶことができたと思えます。実際に社会の一員として働いたことにより、責任感や社会の厳しさなどが身に付き4月から社会人として働く自信ができました。学業については決して満足のいく結果を残せたとはいえませんが、研究室での実験生活をはじめ大学で学んだ多くの経験もこれからの新しい生活のどこかで役に立て、様々なことに挑戦しながらがんばっていきたいと思えます。

卒業を迎えて

応用生物科学科 生理活性物質化学(旧化食系) 林 佑樹

月日が経つのは早いもので、着慣れないスーツを着たあの日から既に4年が経過しようとしています。まさにあっという間の4年間でした。大学生活の中で僕が得たもの、数え上げればキリがありません。お世辞にも勉強をがんばったとはいえませんが、勉強の前に「社会」という言葉を付け足したならば、幾分か胸を張れるかもしれません。一人暮らし、アルバイト、卒業研究など、この4年間に体験できたことの一つ一つに

教えられ、様々なことを学ぶことができました。それらの活動を通して、生涯得難い多くの友人にも恵まれました。しかし、大学生活で得たものを正確に把握できるのはきっと何年も先のことなのでしょう。今は当たり前すぎて気づいていないこともあるでしょう。

4月からは社会人です。激変するであろう環境の変化に困惑することなく、自分らしさを忘れずに行動していきたいと思います。そしていつの日か大学時代に成長した自分自身に出会える日を迎えたいと願っています。

変化と普遍の狭間で

生物機構・機能科学専攻 飛奈 宏幸

この三年間の研究活動（研究と呼ぶには汗顔甚だしいところではあるが）を通じて、キーワードは“稲学”であった。“イネを研究する”、その本質はイネではなく、“日本人”にあるような気がしてならない。我が研究室において発育遺伝学を提唱して下さった故清水正治先生は、御編纂された書の結びにイネの起源に関する興味の行を加えている。そしてイネの形態形成、とくに草丈について重要な知見を加えて下さったのは、イネの生物学的起源における大家である故岡彦一先生であった。これは少なくとも、稲学が単なる寄せ集めではなく、イネにとって“遺して伝える”とはどういうことだったのかを知るための学問であることを意味する。イネを知る、それは直接我々を知ることにつながるのではないだろうか。イネがイネであるために、すなわちそれは我々との関係において、何を遺して伝えてきたのか。それを知ることは、変化と普遍の狭間に存在する我々の道しるべを探すことに他ならない。

「大学院生活を振り返って」

生物情報制御専攻 分化情報制御講座 早川 修平

私は、大学院から名古屋大学に所属しました。様々な期待と不安を抱きながら実験に取りかかったことをよく覚えています。一年が過ぎようとするころ、成果が全く上がらず焦る気持ちから、ただがむしゃらに体を動かし、ただ作業をしているだけのよう時期がありました。そんな折り、先輩から次のようなアドバイスをいただきました。

「明確な目標を上げ、その目標を達成するために何をすべきかを考えることが大切だ。とりあえずやってみようかな……という発想は、もうやめなさい。」私はもっとも根本的なことを忘れていました。実験を行ったような気持ちになっていましたが、実験の方向性自体が目標に向かっていないことが多く、当然のように結果はついてきませんでした。アドバイスをいただいてからは、熟考することに心がけ、さらに何を明らかにするための実験なのかという目的意識を明確に持つことを心がけました。すると、物事の優先順位が明らかとなり、意味のある実験データも得られるようになりました。私の修士論文が意味のあるデータで成り立っているかどうかはさておき、先輩のアドバイスは非常に意味のあるものでした。先輩の意図することが理解できたときが、私の大学院生活でのターニングポイントになったように思います。

また、私は、アドバイスをいただいた先輩をはじめ、

多くの方から影響を受けました。ここでそれらすべてを書き出すことはとうていできません。この紙面すべてをお借りしても書き納めることができないほど多くの影響を受けました。魅力ある方々と過ごした大学院生活は、非常に有意義なものでした。

*

農学部購買店の近況

農学部購買 堀川 秀子

卒業生の皆さん こんにちは。年度末が迫り何故か気忙しい毎日です。約3年前にレストラン花の木横に生協のコンビニができましたので、農学部の店も営業時間が午前10時から午後2時と短くなりました。以前は研究室の人達5～6人のグループで買いに来ていましたが、最近はグループで買いに来る事は少なくなりました。カップラーメンを食べる人にはポットにお湯を沸かしてサービスしております。我家の子供より、学生の皆さんの方がだんだん若くなりましたが、毎日楽しく仕事をさせて頂いて居ります。いつまでも健康に気を付けて定年まで頑張りたいと思います。皆様も名大に来られた時には生協にも顔を出して下さい。お待ちしております。くれぐれもお体を大切に。

事務局だより

研究棟改修工事の完工

平成7年より開始された農学部の建物の大規模な改修工事は、平成12年3月A館東研究棟の工事が、5月にB館の工事が完工し、これで全ての研究棟の改修が完了しました。B館は6階部分を増築し、A館の学生実験室を移動しました。講義棟、管理棟の改修整備も併行して行われ、農学部での教育研究環境の整備が整いつつあります。残るは温室、動物舎等の動植物関係野外施設の改修が待たれるところです。また将来的には先端研究棟を新設する計画も立てられています。

学部および大学院入試の状況

農学部1年生として平成12年春入学手続きをした者は、資源生物環境学科が71名（うち推薦合格11名）、応用生物科学学科が102名（うち推薦合格15名）の合計173名（定員170名）となっています。

昨年9月4日から7日にかけて実施された平成13年度大学院博士課程（前期）の入学試験では、志願者290名の中から178名（生物圏資源学専攻46名、生物機構・機能科学専攻53名、応用分子生命科学専攻60名、生物情報制御専攻19名）が合格しました（定員は121名）。

進路状況

平成12年春農学部を卒業した学生は197名で、このうち大学院進学者は114名、就職した者は59名でした。就職先は食品関連企業14名、コンピュータ関連企業6名、地方公務員9名などとなっています。また、大学院博士前期課程を終了した学生は120名で、うち進学者は37名、就職した者は72名でした。主な就職先は食品関連企業23名、化学・製薬関連企業15名となっています。昨年度は卒業者の大学院進学率がやや高く、就職先内訳にはここ数年大きな変動はみられませんが、バブル

崩壊後の厳しい就職状況は農学部においてもまだ続いている模様です。

同窓会の愛称募集延長決定！

2001年に農学部同窓会が45周年をむかえるのを機に、より一層親しみやすく魅力ある同窓会にするために愛称を募集いたしております。これまでに幾人かの同窓生よりご応募いただいておりますが、まだまだ応募数が少ないので応募期間を延長いたしております。皆さまふるってご応募下さい。

応募方法：はがきまたは電子メールにて応募下さい。その際「応募する愛称名(お一人様1件のみ)」、「応募者の氏名、卒業年次・学科、住所(連絡先)」をお書き下さい。またその愛称を推薦する理由なども簡単にお書き添え下さい。

応募期限：平成13年9月30日まで

宛先：〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学農学部同窓会(愛称募集係)

電子メール：dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp

選考方法：同窓会役員で組織する「愛称選定委員会」において、ご応募いただいた愛称の中から、もっともふさわしいものを1つ選定します。選定された愛称を応募された方にはお礼として5万円の商品券を差し上げます(該当者が複数の場合は均等に配分します)。

選定結果の発表：平成14年開催の同窓会総会において発表します。また同窓会のホームページ(<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>) および同窓会報に掲載します。

これまで寄せられてきた愛称(平成13年1月31日現在)：
@不老、Agr.COM、セコイア同窓会、碧明会、天工会、静樹会

同窓会ホームページとメールアドレス

農学部同窓会ではインターネット上にホームページを公開しています。アドレスは、

<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>

です。また、電子メールによる情報交換を進めています。メールアドレスは、

dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp

です。住所や勤務先の変更など、あるいは同窓会に対するご意見ご要望などございましたら積極的にご利用ください。

平成12年度農学部同窓会役員

| | | |
|--------|------------------|----------|
| 会長 | 巽 二郎 (作物科学) | 789-4019 |
| 副会長 | 福田 勝洋 (動物形態情報学) | 789-4185 |
| | 彌高 耿彦 関東支部 | |
| | 中井 昭彦 関西支部 | |
| 総務 | 北野 英己 (植物遺伝育種学) | 789-4016 |
| | 横地 秀行 (生物材料機械学) | 789-4156 |
| 会計 | 松林 嘉克 (生理活性物質化学) | 789-5552 |
| 名簿 | 大浦 由美 (森林資源利用学) | 789-5036 |
| 会報 | 門脇 辰彦 (多元情報制御) | 789-5237 |
| ホームページ | 山縣 高宏 (動物遺伝制御学) | 789-4102 |
| 事務 | 服部 幸子 (生理活性物質化学) | 789-5435 |
| | 立川美砂子 | |

男と女がつくる社会と学問

生命農学研究科バイオモデリング講座 東村 博子
神経内分泌統御学研究分野

最近のベストセラーに「話を聞かない男、地図が読めない女」(主婦の友社)という本がある。このような本に人々が感心を示すのは、男が女を、あるいは女が男を理解するのはむずかしいと実感させられる場面に、日常的に遭遇するからに違いない。脳には男脳と女脳とがあって、たとえば聴覚は女が、空間認識は男が長けている。また男はひとつのことに集中して仕事をする傾向が高いが、一方女は同時に複数の仕事をこなすことができる場合が多いなどの男女差がある。このように男と女には生物学的な性差ゆえにある種の能力に差があるが、人間としての本質や価値には変わりはない。それぞれの優れた点を認めつつ、足りない点があれば補いつつ、パートナーとして互いに尊敬しあいながら、よりよい社会を創ることが人間のあるべき姿であろう。さらに進めて考えれば、男女それぞれが特出した能力や技能を持つからこそ、相互の協力を根ざした共同参画により飛躍的な社会の発展が期待されるだろう。

女性をとりまく労働環境は、1985年の「男女雇用機会均等法」の制定を機に改善の方向へと第一歩を踏み出した。1997年には同法が改正され、1999年には「男女共同参画社会基本法」が制定されるにいたり、女性

の職場環境が飛躍的に整備されつつある感がある。しかしその裏を返せば、現代に日本では法案をもって改善しなければならないほど職場環境に大きな男女差があることを示している。また、これらの法の制定は、国連を中心とする外圧によるところが大きかったこと、すなわち日本の内部から始まった変化ではなかったことを忘れてはならない。このことは、日本が「女子差別撤廃条約」に批准したのが、「国連婦人の10年(1976-1985)」の最終年であったことにも如実に現れている。日本において社会へ労働力として参加する女性が増える一方で、女性が働く環境整備は立ち後れ、少子化や社会の高齢化などの大きな原因となっている。遅ればせながら、日本政府も内閣府(元総理府)に男女共同参画室を設け、21世紀の最重要問題として男女共同参画社会の実現を目指すに至った。

大学関連でも、2000年にはひとつの大きな動きがあった。全大協が2010年までに女性教官の全教官に占める比率を20%まで引き上げることを目標に掲げたのである。すなわち、教官の5人にひとりが女性となることになる。その背後には、むろん全教官に占める女性教官の割合が低いことへの懸念がある。1998年のデータによれば、教官全体に対する女性教官の占める割合は、

国立大学では平均8%強であり、とくに助教授・教授ポストに占める女性の割合に至っては、国立大学教官の6.5%にすぎない。名古屋大学においても、2000年の時点で助手まで含む女性全教官が全教官に占める割合は8.9%、助教授以上の女性教官の占める割合は6.4%である。国立大学入学者数における女子の比率が約35%であるのに比べ遙かに低い女性教官の比率は、日本の女性研究者がいかに不利な状況におかれてきたかを如実に反映するものであろう。国際学会や海外での共同研究などの折、日本の女性研究者の占める割合が他の先進諸国に比べはるかに低いことを実感させられるし、逆に外国人研究者が日本で女性研究者の少なさに驚くことも少なくない。女性教官の少なさには、単なる「実力主義」の結果だけでは語れない理由があるように思えてならない。

農学部での現状はどうだろうか？ 筆者が教官として赴任した1991年には、女性教官は自分を含めわずか3名であった。歴代女性教官としても4人目であったと記憶している。現在、農学部・大学院生命農学研究科およびその関連施設で教職をとる女性教官は11名である。このわずか10年たらずで、飛躍的に数を伸ばしているようにも見えるが、実際には農学部関係教官全体に占める女性の割合は10%にも満たない。農学部入学者に占める女子の割合が工学部や理学部などの他の理科系学部比べて遙かに高いことを思えば、農学部女性教官の比率は決して高いとは言えない。ただし、他学部の女性教官と意見交換のおりに感じたことであるが、農学部は平等意識がかなり高い学部であり、女性だからという理由のみで不利益をこうむることは少ないように思える。その平等性を重視する空気は、助手の立場についての農学部の考え方「教授会は助手が独立した教員として教育研究の場において、教授、助教授および講師と平等の権利を有するものであることを確認する」(昭和44年第210回農学部教授会決議)を生み出した土壌が根底にあるためであろうか。しかし

残念ながら農学部内においても、セクシャルハラスメントやアカデミックハラスメントなどが話題にのぼることがある。また一般的に、女性はこれらの問題の被害者として関わることが多い。農学部の平等性を重視する伝統を守りつつ、より平等な教育・研究環境を実現することが望まれる。

男女共同参画の問題は、男女両性がともに真剣に考えなければならない問題である。しかしながら、社会への男女参画につきまとう問題については、いまだに「女性の問題」として捉えられがちである。1999年に開催された女性研究者問題全国シンポジウムでの利谷信義氏(元日本学術会議副会長)の発言を借りれば、「男女共同参画社会は、既存の男性社会に女性が参加することではない。男女両性が平等な立場に立ち、協力して平等な社会を新たに作り上げるものである。」ということになる。国立大学の独立法人化や任期制の導入など大学の環境に競争原理を導入し、その組織をドラステックに変えようとしている時代こそ、女性だからという理由で特定の研究者が不利益を被ることのないように、男女両性が知恵を出し合って対処してゆかなければならない好機であると考えられる。

20世紀も終わろうとする昨年12月12日には、名古屋大学に「名古屋大学女性研究者懇話会」が発足した。名古屋大学の教官、技官、事務官、大学院生など研究に携わるすべての女性を対象にさまざまな問題を考え、研究・職場環境を改善し、両性の平等を実現することを目的として設立された組織である。これに先立つ10月には、名古屋大学に「男女共同参画に関する検討委員会」が設置され、名古屋大学で男女両性が平等に教育・研究に関わることが具現化されつつある。平等な立場での女性の参加は、「食・健康・環境」を科学する学問である農学の発展にも大きな飛躍をもたらし、ひいては教育や学問の発展を通じて、社会へより貢献できる近道になると確信している。

記念樹は今(その1)

記念植樹は楽しい作業である。しかし植えるときは熱心に緑の成長を願うのだが、いつの間にか人々の記憶が薄れ、その木がなぜその場所に生えているのか忘れがちとなる。

さて今回は農学部でもっとも古い記念樹である3本のメタセコイアについて触れよう。この木は農学部の第1回卒業を記念して1955年に安城キャンパスに植えられた。その後農学部の東山に移転にともない1966年に現在地(事務・図書棟の西側)に移されている。移植当時の樹高は約10m弱であった(農学部30年誌による)という。場所を得たのか3本の木は今ではそれぞれ胸高直径63、48、48cmに育っており、樹高は農学部の建物を越えている。3角形の配置で植えられているが、南端の木がもっとも大きい(写真)。株もとに立つと45年の年輪を感じさせる風格がある。亭亭とそびえる3本のメタセコイアは記念樹にふさわしく農学部のランドマークとなっている。空に向かって端正に伸びている樹冠を見ていると、この木を植樹された先輩諸

同窓会長 異 二郎

氏の思いがよみがえるようである。しかし、残念ながらこの木々が記念樹であることを知る在校生は少ないようである。北米西部に自生するセコイア(レッドウッド)は世界一の巨木であり、長命で知られている。東山の不老の地につどう農学部同窓会もこのセコイアのようにありたいものである。今回の同窓会報の愛称である「セコイア通信」は、これにあやかっている。



附属演習林庁舎被災する

名古屋大学生命農学研究科附属演習林長 柴田 叡 弐

名古屋市とその周辺部が冠水害に見舞われた2000年9月12日、演習林庁舎も土砂崩れによってかつてない大きな被害を受けました。早朝6時頃、演習林庁舎の向かい側の大井平後援の中腹が崩壊し、土砂が国道257号線を横切り、演習林庁舎を襲いました。被災前日の夜半から雨足が強まり、1時間あたりの降水量は約70mm、24時間雨量は400余mmにも達したほどでした。水をたっぷり含んだ土砂は公園の大木とともに庁舎前の車庫やプレハブ小屋をなぎ倒し、庁舎1階と2階にまで侵入しました。当時庁舎には、当直の技官と大学院学生一人が宿泊していました。技官は玄関脇で濁流にのまれましたが、幸いにも軽傷で済みました。また、学生は4階で宿泊していて事なきを得ました。しかし、建物の1階部分には大量の濁流が侵入して、厨房、食堂、和室、トイレ、風呂などが使用不能となり、2階部分も玄関、トイレ、図書室などが被災しました。演習林林地ではそれほど大きな被害は発生しませんでした。林道が数カ所崩壊し、学生実習にも支障をきた



しました。その後、研究科長や事務長をはじめとする事務職員、さらには本部職員の方々のご尽力により、復旧作業は順調にすすんでいます。今年度末には完全復旧し、新年度からの学生実習や大学院学生、教官の研究活動に間に合わせるべく、演習林教官、技官が努力しているところです。

人事異動 (平成13年1月31日まで)

| 日付 | 内容 | 官職 | 氏名 | 備考 |
|--------|-----|-----------|----------|---------------------------|
| 平成12年 | | | | |
| 4月1日 | 昇任 | 教授 | 和田 清 俊 | 新潟大学へ |
| 4月1日 | 昇任 | 助教授 | 渡邊 祐 弘 | 静岡大学へ |
| 4月1日 | 昇任 | 助教授 | 豊田 剛 己 | 東京農工大学へ |
| 4月1日 | 退職 | 教授 | 岡田 鉦 彦 | H12.3.31限り停年退職 |
| 4月1日 | 退職 | 教授 | 武岡 洋 治 | H12.3.31限り停年退職 |
| 4月1日 | 併任 | 副学長 | 山下 興 亜 | H12.4.1～H14.3.31 |
| 4月1日 | 併任 | 研究科長・農学部長 | 並河 廉 夫 | H12.4.1～H14.3.31 |
| 4月1日 | 併任 | 評議員 | 中村 研 三 | H12.4.1～H13.3.31 |
| 4月1日 | 併任 | 評議員 | 山本 進 一 | H12.4.1～H14.3.31 |
| 4月1日 | 併任 | 資源生物環境学科長 | 道家 紀 志 | H12.4.1～H14.3.31 |
| 4月1日 | 併任 | 応用生物化学科長 | 木村 志 郎 | H12.4.1～H13.3.31 |
| 4月1日 | 併任 | 農場長 | 吉田 重 方 | H12.4.1～H14.3.31 |
| 4月1日 | 配置換 | 研究科教授 | 今井 忠 良 | 応用生命化学講座分子機能学 |
| 4月1日 | 昇任 | 教授 | 三宅 博 | 資源生産生態学講座資源植物環境学 |
| 4月1日 | 採用 | 助手 | 上野 山 賀 久 | 応用遺伝・生理学講座動物生殖制御学 |
| 5月1日 | 昇任 | 助教授 | 田中 隆 文 | 地域資源管理学講座水土保持学 |
| 5月31日 | 辞職 | 教授 | 竹田 泰 雄 | 勲奨 |
| 7月1日 | 昇任 | 助教授 | 上口 智 治 | 生物分子応答研究センターへ |
| 7月1日 | 昇任 | 教授 | 片山 新 太 | 羅処理人工物研究センターへ |
| 7月1日 | 配置換 | 助教授 | 蛭 雅 順 | 名古屋大学博物館へ |
| 7月1日 | 転任 | 助手 | 柴田 秀 樹 | 神戸大より応用生命化学講座分子細胞制御学 |
| 8月1日 | 採用 | 助手 | 中村 宜 督 | 生命機能科学講座食品機能化学 |
| 9月1日 | 転任 | 助教授 | 淡路 和 剛 | 帯畜大より地域資源管理学講座食糧生産管理学 |
| 9月30日 | 辞職 | 助手 | 榑 原 均 | 理化学研究所へ |
| 9月30日 | 辞職 | 助手 | 松 岡 健 | 理化学研究所へ |
| 10月1日 | 転任 | 助教授 | 山田 容 三 | 農水省森林総研より地域資源管理学講座森林資源利用学 |
| 10月16日 | 採用 | 助手 | 大場 裕 一 | バイオモデリング講座分子機能モデリング |
| 11月1日 | 配置換 | 助教授 | 北 島 健 | 生物分子応答研究センターへ |
| 10月31日 | 辞職 | 助手 | 岡田 統 子 | |
| 11月9日 | 死亡 | 教授 | 中村 英 士 | |
| 12月1日 | 昇任 | 助教授 | 谷 口 光 隆 | 資源生産生態学講座資源植物環境学 |
| 平成13年 | | | | |
| 1月1日 | 採用 | 助手 | 川崎 通 夫 | 資源生産生態学講座資源植物環境学 |

同窓会寄付者リスト

下記の方々より農学部同窓会に寄付をいただきました。ありがとうございました。

(平成12年9月25日～平成13年1月22日)

古畑 洋子 加藤 直之
尾坂 知江子 近藤 文雄
川本 雅信

平成11年度 事業報告

1) 総会、講演会、懇親会の開催

平成11年6月12日 名古屋大学農学部において総会を行った。

総会後、小林和人氏(福島県立医科大学教授)による講演「マウス分子遺伝学によるシステムニューロサイエンス：脳機能と疾患の理解に向けて」を開催した。

総会終了後、名古屋大学グリーンサロン内“花の木”で懇親会を開催し親睦を深めた。

2) 農学部創立50周年記念事業への協力

上記事業に対する協力支援として、事業経費(募金要項の郵送費等)の補助、事務作業の分担、理事会(平成11年11月13日)の開催協力等に取り組んだ。

3) 卒業祝賀会の開催

平成12年3月27日に農学部談話室にて開催し、学部長の祝辞の後、樽酒を酌み交わしながら盛会のうちに終了した。

4) 同窓会名称(愛称)の公募

同窓会員の交流と活動に対する理解をより深めるために、同窓会の愛称を会員に広く募集することとした。

5) 会報の発行

平成11年10月、および平成12年3月に発行した。

6) ホームページの作成と管理

同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に同窓会ホームページを解説し充実をはかることとした。

7) 同窓会名簿の管理

名簿の充実と管理について改善に努めた。

平成12年度 事業計画

1) 総会、講演会、懇親会の開催

総会：平成12年6月10日 名古屋大学農学部にて開催

講演会：総会終了後、林和男氏(愛媛大学農学部教授、昭和45年林産卒)“地方大学から見た我が母校”についての講演会開催

懇親会：講演会終了後、名古屋大学グリーンサロン内“花の木”

2) 農学部創立50周年記念事業への協力

引き続き、今年度も上記事業への協力をを行う。

3) 卒業祝賀会の開催

平成13年3月に農学部談話室にて開催予定

4) 同窓会名称(愛称)の公募

愛称募集を期限を延長して続けることとした。

5) 会報の発行(平成12年10月、平成13年3月予定)

6) ホームページの作成と管理

7) 同窓会名簿の管理

名古屋大学農学部同窓会 平成11年度決算報告

平成11年4月1日～平成12年3月31日

一般会計の部

【当期収入の部】

| 費用 | 前期 | 予算(A) | 決算(B) | (B)-(A) |
|--------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 会費収入 | 1,815,000 | 4,000,000 | 3,025,000 | -975,000 |
| 寄付金 | 300,000 | 0 | 347,000 | 347,000 |
| 広告掲載料 | 90,000 | 100,000 | 105,000 | 5,000 |
| 預金利息 | 56 | 1,571 | 1,571 | 0 |
| 雑収入 | 52,927 | 0 | 37,000 | 37,000 |
| 計 | 2,257,983 | 4,101,571 | 3,515,571 | -586,000 |
| 前年度繰越金 | 61,903 | 42,497 | 42,497 | 0 |
| 合計 | 2,319,886 | 4,144,068 | 3,558,068 | -586,000 |

(注1)一般会費収入：1,085,000円(217人分)

新入会費収入：1,940,000円(一般会員：24人分、永久会員：91人分)

(注2)大会観戦会参加費を含む

【当期支出の部】

| 費用 | 前期 | 予算(A) | 決算(B) | (B)-(A) |
|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 会報発行費 | 1,397,315 | 800,000 | 777,849 | -22,151 |
| 会議費 | 27,892 | 50,000 | 5,447 | -44,553 |
| 事務局費 | 71,024 | 100,000 | 88,790 | -11,210 |
| 旅費 | 0 | 30,000 | 3,000 | -27,000 |
| 会員録発行費積立金 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 |
| パンフレット印刷費 | 0 | 150,000 | 125,160 | -24,840 |
| 総会経費 | 150,000 | 200,000 | 165,100 | -34,900 |
| 卒業記念事業 | 101,548 | 150,000 | 0 | -150,000 |
| 支部会援助費 | 50,000 | 50,000 | 0 | -50,000 |
| アルバイト費 | 474,560 | 500,000 | 399,005 | -100,995 |
| 50周年事業補助金 | 0 | 700,000 | 300,000 | -400,000 |
| 予備費 | 5,050 | 414,068 | 0 | -414,068 |
| 計 | 2,277,380 | 4,144,068 | 2,861,351 | -1,279,717 |
| 次期繰越金 | 42,497 | 0 | 693,717 | 693,717 |
| 合計 | 2,319,886 | 4,144,068 | 3,558,068 | -586,000 |

(注1)前期会報発行費(408,639円)を含む。

(注2)加入者負担の場込手数料(22,770円)を含む。

(注3)酒神・樹代金(92,000円)が未払。

(注4)関東支部費(50,000円)が未払。

(注5)アルバイト費後期分(320,495円)が未払。

特別会計の部

【当期収入の部】

| 費用 | 前期 | 予算(A) | 決算(B) | (B)-(A) |
|----------|-----------|-----------|-----------|---------|
| 会員録販売 | 624,000 | 150,000 | 319,000 | 169,000 |
| 一般会計から繰入 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 |
| 計 | 624,000 | 1,150,000 | 1,319,000 | 169,000 |
| 前年度繰越金 | 2,500,000 | 300,406 | 300,406 | 0 |
| 合計 | 3,124,000 | 1,450,406 | 1,619,406 | 169,000 |

【当期支出の部】

| 費用 | 前期 | 予算(A) | 決算(B) | (B)-(A) |
|--------|-----------|-----------|-----------|----------|
| 会員録発行費 | 2,729,184 | 0 | 31,185 | 31,185 |
| 手数料 | 4,410 | 0 | 1,850 | 1,850 |
| アルバイト費 | 90,000 | 500,000 | 0 | -500,000 |
| 過支払返還金 | 0 | 0 | 500 | 500 |
| 計 | 2,823,594 | 500,000 | 33,535 | -466,465 |
| 次期繰越金 | 300,406 | 950,406 | 1,585,871 | 630,465 |
| 合計 | 3,124,000 | 1,450,406 | 1,619,406 | 169,000 |

(注1)会員録郵送用封筒代金、郵送費を含む。

貸借対照表

| 資産 | 前年度 | 今年度 | 負債および資本 | 前年度 | 今年度 |
|------|---------|-----------|---------|---------|-----------|
| 現金 | 66,170 | 102,929 | 資本金 | 300,406 | 1,585,871 |
| 振替貯金 | 94,740 | 549,280 | 当期剰余金 | 42,497 | 693,717 |
| 普通貯金 | 161,993 | 1,607,379 | | | |
| 定期預金 | 20,000 | 20,000 | | | |
| | 342,903 | 2,279,588 | | 342,903 | 2,279,588 |

(註1)本貸借対照表は、特別会計(会員録)を含むものである。

平成11年度会計について、以上の通り正しく執行されましたことを帳簿等により確認いたしました。

平成12年6月5日 監査

名古屋大学農学部同窓会 平成12年度予算(案)

平成12年4月1日～平成13年3月31日

一般会計の部

【当期収入の部】

| 費目 | 前期予算 | 予 算 |
|-----------|-----------|-----------|
| 会 費 | 4,000,000 | 4,000,000 |
| 寄 付 金 | 0 | 0 |
| 広 告 掲 載 料 | 100,000 | 100,000 |
| 預 金 利 息 | 1,571 | 1,310 |
| 計 | 4,101,571 | 4,101,310 |
| 前 期 繰 越 金 | 42,497 | 693,717 |
| 合 計 | 4,144,068 | 4,795,027 |

【当期支出の部】

| 費 目 | 前期予算 | 予 算 |
|-------------------|-----------|-----------|
| 会 報 発 行 費 | 800,000 | 800,000 |
| 会 議 費 | 50,000 | 50,000 |
| 事 務 局 費 | 100,000 | 100,000 |
| 旅 費 | 30,000 | 30,000 |
| 会 員 録 発 行 費 積 立 金 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| パンフレット印刷費 | 150,000 | 150,000 |
| 総 合 経 費 | 200,000 | 200,000 |
| 卒 業 記 念 事 業 | 150,000 | 150,000 |
| 支 部 会 援 助 費 | 50,000 | 100,000 |
| ア ル バ イ ト 費 | 500,000 | 500,000 |
| 50周年事業補助金 | 700,000 | 400,000 |
| 予 備 費 | 414,068 | 1,315,027 |
| 合 計 | 4,144,068 | 4,795,027 |

特別会計の部

【当期収入の部】

| 費 目 | 前期予算 | 予 算 |
|-------------|-----------|-----------|
| 会 員 録 頒 布 | 150,000 | 150,000 |
| 一般会計から繰入 | 1,000,000 | 1,000,000 |
| 計 | 1,150,000 | 1,150,000 |
| 前 年 度 繰 越 金 | 300,406 | 1,585,871 |
| 合 計 | 1,450,406 | 2,735,871 |

【当期支出の部】

| 費 目 | 前期予算 | 予 算 |
|-------------|-----------|-----------|
| 会 員 録 発 行 費 | 0 | 0 |
| 手 数 料 | 0 | 0 |
| ア ル バ イ ト 代 | 500,000 | 500,000 |
| 計 | 500,000 | 500,000 |
| 次 年 度 繰 越 金 | 950,406 | 2,235,871 |
| 合 計 | 1,450,406 | 2,735,871 |

下記の方に農学部創立50周年基金に寄付をいただきました。50周年基金事務局よりお礼申し上げます。募金は現在も受け付けております。まだの方は基金して下さるようお願い申し上げます。

(平成12年2月3日以降平成13年3月9日確認分)

| | | | | | | | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 農学科 | 昭和31年 | 山崎 義雄 | 昭和50年 | 丹羽美喜夫 | 平成06年 | 沖本 光徳 | 昭和58年 | 水野 能明 |
| | 昭和34年 | 柴田 一憲 | 昭和51年 | 林 行春 | | 森田 誠二 | | 長沼 隆 |
| | 昭和35年 | 小出 仁士 | | 稲垣 俊和 | 平成10年 | 中村 和弘 | | 隅田 明浄 |
| | 昭和37年 | 浅野 昌司 | 昭和52年 | 山本 広一 | | | | 松崎 智徳 |
| | 昭和38年 | 山川 薫 | | 西尾 宗男 | 林学科 | | 昭和59年 | 栗田 悟 |
| | | 鶴田 嵩 | 昭和53年 | 中野 隆 | 昭和33年 | 竹内 英三 | 昭和60年 | 横井 健二 |
| | | 村瀬 充勝 | | 川添 恭介 | 昭和34年 | 齋木 洋幸 | | 佐藤 功佐 |
| | | 柴田 勝 | | 酒井 秀郎 | 昭和35年 | 加藤 清之 | 昭和61年 | 紀藤 元辰 |
| | 昭和39年 | 加藤 丈定 | | 鈴木千恵子 | | 中井 宏明 | 昭和63年 | 寺沢 健治 |
| | 昭和41年 | 久野 勝治 | | 外村 常男 | 昭和37年 | 平尾 純吉 | 平成2年 | 四本 圭介 |
| | | 則武 晃二 | 昭和54年 | 日比野憲一 | | 長谷 泰弘 | 平成3年 | 石田 朗 |
| | 昭和42年 | 岡本 英誠 | 昭和55年 | 作井 英人 | | 石河 正則 | | 武田 信一 |
| | 昭和43年 | 河井 和夫 | | 溝口 健 | | 木村 邦彦 | 平成6年 | 田中 伸明 |
| | | 青木 征男 | | 野村 康雄 | 昭和39年 | 牧戸 幸央 | | |
| | 昭和44年 | 山口 秀和 | | 濱田 千裕 | | 伊藤 潔 | 畜産学科 | |
| | 昭和45年 | 鈴木 範良 | 昭和56年 | 重松 武 | 昭和40年 | 兼岩 峨 | 昭和30年 | 富田 武 |
| | | 米久保智得 | 昭和57年 | 飯沼 隆幸 | | 梅本 真次 | 昭和32年 | 太田 克明 |
| | | 松井 勇 | 昭和58年 | 野々山利博 | | 林 紘造 | 昭和34年 | 今井 種之次 |
| | 昭和46年 | 柳原 啓高 | | 井口 眞一 | 昭和41年 | 加藤忠太郎 | 昭和38年 | 平野 孝次 |
| | | 村上 匡宏 | 昭和60年 | 永岡 佳訓 | 昭和43年 | 井谷 光孝 | 昭和40年 | 大羽 利治 |
| | 昭和47年 | 田畑 勝洋 | | 金山 喜則 | 昭和44年 | 中島 明雄 | 昭和43年 | 原 和安 |
| | | 大橋 弘道 | | 川口 章 | | 柳原富司 | | 森本 幸二 |
| | | 丹羽 吉和 | 昭和61年 | 仲井 靖 | 昭和46年 | 宮本 俊雄 | 昭和44年 | 宗宮 弘明 |
| | | 森中 定治 | 昭和62年 | 二村 幹雄 | | 渡邊 悟 | | 水口 建治 |
| | | 寺島 賢一 | | 西嶋 佳子 | 昭和49年 | 小林 良一 | | 織田 銃一 |
| | | 深谷 雅博 | 昭和63年 | 高奥 芳子 | 昭和50年 | 斉藤 義久 | 昭和45年 | 近藤 専治 |
| | | 春日井 治 | | 鈴木 裕治 | 昭和52年 | 嶋崎 省 | | 吉田 隆 |
| | 昭和48年 | 江川 明徳 | | 田村 克徳 | 昭和54年 | 土屋 幸敏 | | 矢野 二郎 |
| | | 鶴岡 博文 | 平成2年 | 村瀬佐智子 | | 松浦 純生 | 昭和47年 | 中村 義人 |
| | | 北川 一二 | 平成4年 | 岸澤 美和 | 昭和55年 | 板岸 亮一 | | 下沢 昂信 |
| | 昭和49年 | 中條 隆治 | 平成5年 | 仙田 香織 | | 原 義文 | 昭和48年 | 大島洋次郎 |
| | | 近藤 喜治 | | 吉村 幸江 | 昭和56年 | 若松 正弘 | 昭和49年 | 遠藤 結城 |
| | | 加藤 陽司 | | 鳥澤恵理子 | | 井上 温 | 昭和50年 | 荒木 光代 |
| | | | | 鈴木 康生 | 昭和57年 | 仲村 正彦 | 昭和51年 | 瀬川 敬 |
| | | | | 藤原 敏彦 | | 坂口 雅夫 | 昭和52年 | 林 一雄 |

| | | | | | | | |
|-------------|--------|--------------|--------|-----------------|--------|----------------|--------|
| 昭和54年 | 深沢 寿彦 | 昭和63年 | 小原 光博 | 昭和57年 | 飯田 健司 | 伊藤 秀俊 | |
| 昭和56年 | 牛田 夫 | 平成1年 | 水野 涉 | 昭和58年 | 重本 泰範 | 川合 健一 | |
| 昭和57年 | 小島美佐子 | 平成2年 | 中井 毅尚 | 昭和59年 | 正木 紀子 | | |
| 昭和59年 | 加藤 伸幸 | 平成4年 | 三井 三勝也 | 昭和61年 | 近藤彩伽里 | 博士課程前期 | |
| 昭和60年 | 近藤 俊樹 | 平成5年 | 今西 志祐 | | 高瀬一成 | 農学科 | |
| | 松沢 陽子 | 平成6年 | 竹田 博志 | 昭和62年 | 川端 史郎 | 昭和36年 | 菊本 敏雄 |
| | 高須 修 | | | 昭和63年 | 加納 孝子 | 昭和40年 | 平島 昭和 |
| | 吉木 淳 | 農芸化学科 | | 平成02年 | 高野 克幸 | | 中垣 洋一 |
| 昭和61年 | 鈴木 富雄 | 昭和30年 | 井上 起男 | 平成03年 | 丹羽 利男 | 昭和44年 | 一政 裕輔 |
| | 忠平 深子 | | 志賀 一三 | 平成06年 | 細谷 信晃 | 昭和46年 | 鈴木 幸一 |
| | 古池由美子 | | 長谷川 徹治 | 平成07年 | | 昭和49年 | 鈴木 茂敏 |
| 昭和63年 | 山崎 一斗 | 昭和32年 | 築山 昭治 | 食品工業化学科 | | 昭和51年 | 矢野 守二 |
| | 早川乃夫 | | 細井 幹彦 | 昭和47年 | 若松 利男 | 平成3年 | 蘇 智慧 |
| 平成2年 | 西野 直樹 | 昭和34年 | 加藤 克二 | 昭和51年 | 泉地 俊孝 | 畜産学科 | |
| 平成3年 | 安藤 登己 | | 八代 勝美 | 昭和52年 | 西松香代子 | 昭和36年 | 木村 健一 |
| | 加藤 将也 | 昭和35年 | 渡邊 史朗 | | 平井 利明 | 昭和43年 | 生永 治彦 |
| 平成5年 | 浅井 綾子 | | 川村 吉也 | 昭和53年 | 角藤 年昭 | 昭和46年 | 田畑 満生 |
| 平成6年 | 森山 直己 | | 管谷 重信 | | 伊藤 泰洋 | 昭和52年 | 梅原 貞臣 |
| | 葛谷 好弘 | 昭和36年 | 坂野 大章 | 昭和54年 | 伊倉地 明 | 平成2年 | 丹羽 信裕 |
| | 山形 千品 | | 鈴木 洋 | | 星井 康成 | 林産学科 | |
| 平成8年 | 山田佐紀子 | 昭和37年 | 神田 和一 | 昭和55年 | 星跡部 昌彦 | 昭和56年 | 尾崎 士郎 |
| 平成11年 | 甲田 智広 | | 吉川 秀雄 | 昭和56年 | 吉田 久美 | 昭和57年 | 尾崎 英彦 |
| | 鈴木 正樹 | 昭和38年 | 志水 正隆 | | 高橋 正人 | 農芸化学科 | |
| | 田中 和明 | | 佐藤 茂彦 | 昭和57年 | 森 善彦 | 昭和42年 | 松本 正男 |
| 林産学科 | | 昭和39年 | 山中 有信 | | 柴原 信彦 | 昭和43年 | 近藤 忠男 |
| 昭和44年 | 滝 欽二 | | 藤村 喜重 | 昭和59年 | 加藤 信彦 | 昭和45年 | 金子 憲太郎 |
| | 大野 義彦 | 昭和40年 | 福嶋 武安 | | 服部かをり | 昭和48年 | 白各 良輔 |
| | 内藤 春彦 | | 浅井 信男 | 昭和60年 | 越坂 卓也 | 昭和50年 | 今村 光子 |
| | 黒野 龍夫 | 昭和41年 | 新美 建男 | | 小早川和義 | | 片山 正人 |
| | 藤井 純二 | | 山田 国義 | 昭和61年 | 金子 俊之 | 食品工業化学科 | |
| | 川之 知夫 | 昭和42年 | 平田 卓生 | | 藤田 貴子 | 昭和50年 | 田川 宗数 |
| | 高橋 徹彦 | | 岩間 秀矩 | 昭和59年 | 白井 真子 | 昭和54年 | 久保 さつき |
| 昭和45年 | 市川 治彦 | 昭和43年 | 古田 伸隆 | | 出雲 暖子 | 昭和58年 | 高崎 禎子 |
| | 沢木 良次 | | 鈴木 浩 | 昭和60年 | 寺前 朋浩 | 昭和60年 | 村松 正善 |
| | 樋口 晴一 | 昭和44年 | 梅田 吉道 | | 白井由美子 | 平成3年 | 高橋 宏幸 |
| | 古澤 弘 | | 川村 征夫 | 昭和61年 | 外川 順子 | 平成7年 | 那須 智 |
| | 福井 富義 | 昭和45年 | 服部 隆志 | | 田中 倫子 | 生化学制御専攻 | |
| 昭和46年 | 福田 秋博 | | 天野 孝良 | 昭和62年 | 梶野 勉 | 昭和55年 | 村上 品彦 |
| 昭和47年 | 鬼頭 哲一 | 昭和46年 | 青木 建樹 | | 小池 真和 | 昭和58年 | 南 栄一 |
| | 石黒 卓 | | 川合 昭房 | 昭和62年 | 七田 喜章 | 昭和59年 | 荒谷 康昭 |
| 昭和48年 | 藤沢 茂 | 昭和47年 | 近藤 博信 | | 榎原 達哉 | 博士課程後期 | |
| | 竹内 典嗣 | | 桑野 正敬 | 平成1年 | 榎地 利枝 | 林学科 | |
| | 森 宜人 | 昭和48年 | 笠井 正文 | 平成2年 | 稲吉 正紀 | 昭和46年 | 橋本 和彦 |
| 昭和49年 | 門脇 文雄 | | 岩田 宏文 | 平成3年 | 日々野 沙 | 農芸化学科 | |
| 昭和50年 | 近藤 善明 | 昭和49年 | 松本 哲英 | 平成4年 | 細野 光章 | 平成5年 | 勝崎 裕隆 |
| 昭和51年 | 芝田 隆史 | | 芳賀 英二 | | 角田 泰規 | 旧研究員 | |
| | 田中 滋彦 | 昭和46年 | 片山 孝三 | 平成5年 | 杉山 幹子 | 農学科 | 栗林 茂治 |
| | 鈴木 秀彦 | | 山下 公 | | 桜田 誠司 | 旧教官 | |
| 昭和52年 | 中川 正樹 | 昭和47年 | 神谷 隆元 | 平成6年 | 則信 由貴 | 農学科 | 本多 八郎 |
| | 片岡 野辰明 | 昭和48年 | 山本 寿男 | 平成7年 | 平尾 豪人 | | 手塚 修文 |
| | 波多野 努 | | 木村 憲司 | 平成8年 | 片岡 篤彦 | | 日比野 啓行 |
| | 川口 満祥 | 昭和49年 | 高松 久夫 | | 湯浅 恵造 | 畜産学科 | 川本 芳 |
| | 柴田 利治 | | 鈴木 善彦 | 資源生物環境学科 | 蓮井 ゆり | 林産学科 | 浅野 猪久夫 |
| | 中谷 一則 | 昭和50年 | 北野 豊 | 平成9年 | 前田 富弘 | | 川上日出国 |
| | 浜岡 正弘 | | 寺田 宗玄 | | 伊藤 ゆふ | その他 | 羽生 功 |
| | 国水 武孝 | 昭和52年 | 安井 卓男 | 平成10年 | 大宮 恭子 | 学内関係者 | 笠木 和雄 |
| | 水沢 孝 | 昭和54年 | 古川 正美 | | 大島 弘義 | | 安藤 幸世 |
| 昭和53年 | 安井 昭広 | | 北川 裕子 | 平成10年 | 櫻岡 伸一 | 所属不明 | |
| 昭和54年 | 吉田 孝久 | 昭和55年 | 吉田 康章 | | 櫻岡 由久 | 農学科 | 長嶺 将昭 |
| 昭和55年 | 入野 哲朗 | | 市川 裕敏 | 平成9年 | 猪原 智修 | | 鈴木 征雄 |
| | 小林 和美 | 昭和56年 | 鈴木 克周 | 平成10年 | 奥田 美乃里 | | |
| | 福井 秀一 | | 岩崎 行玄 | | | | |
| 昭和56年 | 大谷 一郎 | | 岡田 直子 | | | | |
| 昭和58年 | 森 俊幸 | | | | | | |

バイオサイエンス分野のサポートで
奉仕する(株)カークです

取扱品

研究用試薬・工業薬品・体外診断用検査薬
理化学用分析機器・ディスプレイ製品 etc

カスタムメイドサービス

受託合成DNA・受託電子顕微鏡解析



Tel. 052-971-6533 Fax. 052-972-7295
Home page: <http://www.cahc.co.jp>
(旧社名:名古屋片山化学株式会社)

理化学器械・研究設備・光学機器・ガラス器具
主要取扱メーカー

| | |
|--------|---------|
| 久保田製作所 | トミー精工 |
| 東京理化 | タイテック |
| マリソル | 日本エイド |
| 佐久間製作所 | 若城硝子 |
| 三洋メディカ | アトバンテック |
| 三立科学 | アト |



株式会社 **みずほ理化**

〒468-0066 名古屋市天白区元八事1丁目33番地
TEL 052-831-8800
FAX 052-834-4117

BIO の未来に夢と希望を！
機材 と 試薬 のご用命は理科研へ

RIKAKEN CO., LTD.

理科研株式会社

<http://www.rikaken.co.jp>

本社/名古屋市守山区元郷二丁目107番地
〒463-8528 TEL(052)798-6151 FAX(052)798-6157
支店・営業所/東京・つくば・柏・神奈川・静岡・岐阜・津・四日市

理化学器械・光学器械・分析器械・ガラス器具一般

特約代理店

オリンパス光学・三洋電機(株)
ヤマト科学(株)・東亜電機(株)
(株)佐久間・(株)若城硝子

合資会社 **木下理化**

〒466-0035
名古屋昭和区松風町1丁目32番の3
TEL (052) 859-2132
FAX (052) 859-2136

和光純薬



和光純薬は世界を見つめ
未来を見つめて製造しています。

- 試薬
- 核酸抽出試薬
- DNA/RNA抽出試薬
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット
- 臨床検査薬
- 核酸抽出試薬
- DNA/RNA抽出試薬
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット
- 化粧品
- DNA/RNA抽出試薬
- DNA/RNA抽出試薬
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット
- DNA/RNA抽出キット

和光純薬工業株式会社

農学部同窓会事務局では、広告の募集をしております。本会報の発行部数は、現在約6000部で、本学農学部関係者に配布されています。会社の広告、同期会の通知などにご利用下さい。

なお、費用は1ワク1万5千円です。詳しくは、同窓会事務局まで。



小さい発見、小さい得意

お祝い申し上げます。
ハヤシは、そんな会社です。
なりたてと思えます。

毎日ひんやり、
新しいひんやりき。

- 【主な取扱品目】
● 試薬/濃圧子工学、生化学、組織培養、ELISA、有機合成、分析化学、公害分析
● 分析用機器/FFLCシステム、液体クロマトグラフィーシステム、液体クロマトグラフ用カラムシステム、CO₂インキュベーター機
● 化学工業薬品/有機無機工業薬品、排水処理薬品、接着剤、シリコン製全般、油圧油剤、界面活性剤、高圧ガス、石油製品、食品添加物、その他工業薬品全般
● 有機・無機材料/半導体材料、ファインセラミックス、レアアース、合成樹脂材料など

ハヤシ化成株式会社
HAYASHI KASEI CO., LTD.

■ 本社
名古屋市熱田区神宮3-11-25 〒466-0031
☎(052)683-3883(代) FAX(052)671-8985
■ 営業所/豊田・四日市・岡井・豊川・三島・東京

